

近現代美術に関する交流史的研究 (①企03-14-4/5)

目 的

日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

成 果

1. 黒田清輝作品及び関連資料の調査研究
 - ア) 黒田清輝《東久世伯肖像》(参議院蔵)、《春・秋》(個人蔵)の調査を行った。また菱田春草《菊慈童》(飯田市美術博物館蔵)、岸田劉生《古屋君の肖像(草持てる男の肖像)》(東京国立近代美術館蔵)の光学調査を行った。
2. 現代美術資料の整理作業及びデータベース化作業
 - ア) 笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。また美学校の中心的人物だった今泉省彦所蔵の資料調査を行った。
 - イ) 当所所蔵近現代美術資料データの公開促進についての調査研究として新海竹太郎の手記や制作に関する写真・書類等、資料一括を受贈、前年度に寄贈を受けたガラス乾板に加え、新海竹太郎アーカイブの拡充を図った。
 - ウ) 矢代幸雄・ベレンソン往復書簡の翻刻・翻訳及び関連調査としてベレンソンの研究所を引き継いだイタリアのヴィラ・イタッティでの調査を行った(一部助成金)。
 - エ) 現代美術資料の整理作業及びデータベース化作業として今泉省彦資料の調査をもとに、企画情報部研究会で橘川・河合による口頭発表を行った。
3. 東アジアを中心とする近代美術の交流に関する調査研究として東京工業大学准教授の戦暁梅氏、ソウルで研究活動を進める稲葉真以氏を招き、近代中国の蒐集家廉泉、及び韓国美術のジャンル形成についての企画情報部研究会を開催した。
4. 東アジアを中心とする近代美術の交流に関する調査研究として韓国国立中央博物館でのシンポジウム「東洋を蒐集する」に山梨が参加、「李王家コレクションの位置づけをめぐって」の題で発表を行った。

論文

- ・塩谷純「明治期やまと絵断章」『美術フォーラム21』29 pp.125-131 14.5
- ・塩谷純「春草と“金銀体”」『菱田春草』展図録 東京国立近代美術館 pp.182-187 14.9

発表

- ・山梨絵美子「黒田清輝『昔語り』再考」企画情報部研究会 東京文化財研究所 14.9.30
- ・田中淳「岸田劉生と古屋芳雄—劉生の「駒沢村新町」療養期を中心に」企画情報部研究会 東京文化財研究所 14.9.30
- ・塩谷純「仙台・昭忠碑、被災から復興へ向けて」第48回オープンレクチャー 東京文化財研究所 14.11.1
- ・山梨絵美子「李王家コレクションの位置づけをめぐって」シンポジウム「東洋を蒐集する」 韓国国立中央博物館 14.11.14
- ・河合大介「反芸術・脱主体化・匿名性—山手線事件と赤瀬川原平を中心に—」企画情報部研究会 東京文化財研究所 15.3.24
- ・橘川英規「観光芸術多摩川展パノラマ図を観る—富士山、機関車、少女、井戸」企画情報部研究会 東

①プロジェクト研究 Area1

京文化財研究所 15.3.24

刊行物

- ・塩谷純「開国から1920年代 プロローグとしての日本近代美術史」東京美術倶楽部編『日本の20世紀芸術』平凡社 pp.14-18 14.11

研究組織

- 塩谷純、田中淳、山梨絵美子、城野誠治、橘川英規、河合大介（以上、企画情報部）、三上豊、丸川雄三（以上、客員研究員）